

「東京真田町の会」会報

日本タボス

平成10年12月25日



信綱寺の本堂

大柏山 信綱禅寺

真田信綱公 真田昌輝公 墓 所

NO.

11

新任ごあいさつ

会長 三井芳郎 (大庭出身)



は誠心誠意会の発展のために尽くしたいと考えております。

幸いにして東京真田町の会には十年の歴史がございます。前会長と役員、そして会員の皆さんが築いてくださったレールの上を更に前進いたします。

このたび東京真田町の会会長の大役を仰せつかりました。大勢の先輩諸兄の居られる中で、私がと一瞬考えましたが、小林前会長のご指名とご出席の会員全員のご賛同を得ましたので、意を決してお引き受けいたしました。お引き受けしました以上

本会の目的は会員相互の親睦と、ふるさと真田町との友好交流であります。その目的達成のために年一回の総会、ふるさと訪問、会報日本ダボス発行は三つの柱です。更にスポーツ、文化等やりたいことは沢山ござい

ます。豊かな経験をもつ二十名の役員と一致協力して会を運営して行きたいと思っております。私達の目標とするところは「全会員が楽しめる会」にして行きたい、これが願いです。会員の皆さんのご協力を切にお願い申し上げます。

第十一回総会は十月十一日、百二十八名の皆さんがご出席くださり、開催することが出来ました。特に真田町からは箱山町長、柄沢助役、堀内町議会議長、清水婦人会会長、真田郷のみな

さんほか、総勢二十六名の皆さんが応援にかけつけて盛り上げて下さり、おかげさまで盛大な楽しい総会となりましたこと、厚く御礼申し上げます。

今年の総会も一年振りに又何十年ぶりにお会い出来た喜びと懐かしさで、和気藹々と語る姿が見られました。そこには永い年月の経過を忘れさせる、同じふるさとをもつ者の心温まる感動の風景がありました。総会に出席すると夢も希望も出て何か若返るような気がします。一人でも多くの方のご出席をお待ちして居ります。

日本ダボスは毎年十二月に発行されますが、もっと多くの情報を載せたいと思いますので会員の皆さん、どんな短い文章でも、又何時でも結構ですから気がつきました時に日本ダボス編集部にお送りくださいますようお願い致します。

最後になりましたが、会員の皆さんには呉々も御健康に留意されまして、元気で新しい年を迎えられ引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。

又、真田町の皆さんには今後共変わらぬご指導とご支援をお願い申し上げますと共に、御健勝と真田町の御発展を心よりお祈り申し上げます。

東京真田町の会の発展を願って故郷から

真田町長 箱山好猷



東京真田町の会会員皆様方にはお元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

平成十年秋の総会においては、発足以来、会長として会の発展にご尽力いただきました小林会長をはじめ、多くの役員の方々が御勇退なさいまして、三

井新会長を中心に新しい役員体制が確立され、東京真田町の会がさらに力強く前進なさいましたことを、心からお祝い申し上げますと共に、会のますますの発展をお祈り致します。

皆様の故郷真田町も平成十年十月一日に発足四十周年の記念式典を貴会代表の方々の御出席をいただく中で、盛大に開催することができ、またその席上、東京真田町の会から記念植樹一式を贈呈いただきましたことを

町民一同を代表して衷心より厚く御礼申し上げます。

真田町は今、二十一世紀を迎えるにあたって、平成十年度を初年度として十年間の町の進むべき姿を示す第四次真田町長期振興計画をスタートさせました。基本目標に「自然・文化・人・そして夢……子供たちへ」を掲げ、行動指針として「共に知恵を出し、共に汗を流す町づくり、そして基本構想として

は、

輝く未来への町づくりと連携
快適で住みやすい

うるおいのある生活
豊かで魅力ある

産業の育成と展開
福祉健康の町づくりの推進
誰もが将来に夢をもてる

町づくり
町民一人ひとりを大切に

行財政の運営
の六項目をあげ、二十年、三

年先の真田町は

個性豊かな町、自然環境に
恵まれた住みよい町

福祉健康の町、文化と

生涯学習の町、交流の町

活気ある産業の町、
女性が活躍する町

でありたいと願い、町民一丸となって、一歩一歩力強く確実な歩みが続け、皆様に安心していただける真田町をつくってまいりますので、皆様方も常に故郷を見守っていただき、折にふれ温かく力強い御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様方の一層の御健勝、御多幸、そして東京真田町の会のますますの御発展をお祈り申し上げます、ごあいさつと致します。

議長就任あいさつ

真田町議会 議長 合葉 啓



今般日本ダボス発刊に当たり、真田町議会を代表いたしました一言ご挨拶を申し上げます。

真田町発足四十周年の記念すべき年の十月二十五日に執行されました第十一期真田町議会議員選挙におきまして、新人八名を含む新しい十八名の議員が誕

生いたしました。こよなく真田町を愛し、ひたすら真田町の発展を考える議員各位のご推挙により、議長の大役をお引受けすることになりました。浅学非才の我が身を顧みずお引受けいたしましたがお引受けするからには、議会の機能の充実を計り、厳正公平な立場で町民から信頼される議会運営を計り、理事者共々真田町の発展と町民の福祉向上の為に誠心誠意努力する所存でございます。「東京真田町の会」会員各位のご指導、

ご協力を賜ります様宜しくお願いを申し上げます。

さて、今日の景気の低迷は未曾有の混乱期と申しまでも過言ではない程冷え込んでおります。政府の打ち出す対策につきましても回復の兆しが見えないのが現状でありまして、我が真田町の財政運営に大きく影響を及ぼしてまいります。この厳しい状況下にあつては町民の英知と協力を仰ぎ、勇気を持った意識改革が必要な時期であります。そこで、過日真田町発足記念の

事業として第一回の真田氏サミットと題し、真田氏を活かした町づくりフォーラムを開催いたしました。真田家が武田の家臣であつた時にも真田の地をこよなく愛し、真田の地で名を馳せたいとの願望を常に持ち続けていたとお聞きし、改めて今私達が住んでいる真田町を一層誇りに思える感動と、この歴史と文化を後世まで引き継いで行かなければならない責任の重大さを痛感いたしました次第でございます。

とかく高度成長の時代に失われたと言われる「心のぬくもり」が今の時代に特に求められております。真田氏の歴史で結ばれた縁として、人的な交流・物的な交流を深め、新しい時代文化を造り出す事がこれからの地方分権社会においても重要な政策課題であると思います。特に貴会と町の関係につきましては最も深い関係にある訳でありまして、貴会発足十年経過を機に一層の交流・ご交誼、そして情報の提供を賜り永劫の真田町発展の為に鞭撻の程をお願い申し上げます。

最後になりましたが、「東京真田町の会」会員各位のご健勝と貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

ふるさと真田町より

婦人会長 清水淑江



真田町四十周年記念式典が町の文化センターで行われた折、

「東京真田町の会」の役員さん方とお会いする事が出来、東京で又お会いしましょうと約束してお別れしました。

それから十日後、市ヶ谷の会場で、なつかしいお顔に再びお目にかかることが出来ました。

文化センターでは大勢の人でしたし、時間も少なくゆっくりに話することが出来なかつたのに、きちんと顔を覚えていて下さり、さあさと案内していただいた時は、とても嬉しく、旧知の友に会ったような感じでした。

さて、真田町には農村活性化女性懇話会という農業に携わっている者や、ふれあい市関係者、農業委員、婦人会役員等で作る会があります。女性の視点から物を見、少しでも町の活性化の為のお手伝いが出来たら

と、私も会員の一人にさせていだいております。特産品、農業体験、総合企画の三つの部会に分かれ話し合いを進めていますが、地域を知らなければと、先日町内を見て歩きました。真田町は、水が多くきれいでおいしいという事を改めて知らされました。唐沢の滝は有名で、写真などでも紹介されていますのでよく知っていましたが、大神の滝には驚かされました。道からちよつと入っただけの所で、白糸の滝のように細い流れが、幾筋にもなり、高さも

あつて、すばらしいながめでした。水のおいしさといえば土屋水源です。岩と岩の間から昏々と湧き出しており、何とものたえようのないおいしさでした。これは真田町の水源の一つですが、上流に住む者の責任として、いつまでもきれいな水を守っていかなければと改めて思いました。

女性懇話会の研修で、真田町の水のすばらしさを再認識しましたが、婦人会でも、地球にやさしい生活を心がけ、水の大切さについて考えることを課題に努力して来ました。使った水をきれいに自然に返すにはどうしたら良いか、化学肥料を少なくし、有機野菜を作る良い方法はないだろうか等。そこで五年程前、他地区で使っていたE・M菌(はかし肥)を婦人会でも作ってみました。台所から出た生ごみにばかしを混ぜてねかせただけの肥料ですが、野菜の色が濃くおいしくなった、甘味が増した、病気になるにくくなった等大変好評です。真田町のおいしい水をいつまでも守り、地球にやさしい生活をずっと続けていきたいと思えます。皆さん、ふるさとへお帰りの折は、ぜひ、きれいな水巡りを計画に入れてみて下さい。

真田町発足四十周年記念式典に参列して

清水 清晴

十月一日、真田町文化会館大ホールに於いて、政界および近隣市町村長さんと、町の有識者など、ホール満員の参列者で、真田町発足四十周年記念式典が開催され、東京真田町の会も小林会長ほか五名のご招待を頂き参加させて頂きました。午前十時よりオープニング、町発足四十周年記念制作ビデオ「町のあゆみ四十年」が上映され、発足から、町の活動状況が、白黒で撮影されていて、四十年の辛苦のあゆみが賢明に醸し出されて過去の活動が手にとるように解りました。

記念式典に入り、開会のことば、大塚教育長の先唱で町民憲章が参列者一同で斉唱・箱山町長式辞「真田氏発祥の郷は今、豊かな稔りの季節を迎えております。昭和三十三年十月一日、長・傍陽・本原が合併して真田町が産声をあげ、爾来四十年、町は貧しく厳しい時代を過ごし現在は確かな足取りで、郷土を愛し、慈しみ、町づくり、地域づくり尽力された先輩諸氏」云々との式辞がありました。次に表彰で、特別功労者として、町長として二期八年町の自治の発展に尽力された功で、若林康



朗前町長、その他、一般功労として、自治・産業・保険衛生（校医）社会福祉・消防・教育・文化などの功労者の表彰、石舟区は百年間無火災という未到の記録を樹立し区民一同の消防の意識の高さにはびっくりしました。

続いて東京真田町の会から記念樹を贈呈することになり小林会長より、箱山町長に目録をお渡ししました。式典終了後はアトラクションで、真田町消防音楽隊記念演奏、ビルボード・マーチや中村八代ヒット曲メドレーなどを拝聴、十五分間の休憩のあと、祝宴に入りました。

真田町の新町会議員

任期満了に伴う町議選挙が9月25日行われ新しい議員さんが決まりました。（敬称略・あいうえお順）

議長	合葉 啓（本原）	
議員	小川 博（傍陽）	倉橋 重松（長）
	坂口 光（本原）	坂口 良平（長）
	佐藤 公至（長）	清水 俊治（傍陽）
	高寺 孝美（本原）	田中 治雄（本原）
	中沢 守雄（傍陽）	中村 康治（本原）
	縷沢不二雄（長）	花岡 静枝（長）
	堀内 唯行（傍陽）	松沢 政（長）
	三井 博文（傍陽）	宮崎 正三（長）
	山崎 寿雄（本原）	

真田町役場組織 市外局番 0268-72-

役 職	氏 名	電 話
町 長	箱 山 好 猷	2200
助 役	柄 沢 衛	2200
収入役	荒 井 良 徳	2200
教育長	大 塚 貢	2655
総務課長	渋 沢 忍	2201
情報政策課長	内 海 勝 利	2202
税務課長	金 子 南 一	0154
町民福祉課長	若 林 和 雄	2203
農林課長	一之瀬 忠 茂	4330
建設課長	荒 木 愛 浩	4331
観光商工課長	芳 沢 孝 夫	2204
消防課長	小 林 稔	0119
水環境課長	山 口 和 衛	4253
教育次長	大久保 文 雄	2655
議会事務局長	渡 辺 忠 和	4332
フレアイサナ館支配人	若 林 雅 一	2500

町のホームページの紹介

<http://www.sanada.or.jp/>

「町のイメージキャラクター・マンガを活用して真田氏関係を紹介」

<http://www.town.sanada.nagano.jp/>

「町の職員手づくりによる、町の身近な話題を紹介」

叙勲の栄に浴して

内 海 辰 三 (大庭出身)



今春満七十才を迎えて叙勲の栄に浴し、勲四等旭日小綬章を賜りました。去る十月十一日東京真田町の会に於て箱山町長さんの祝辞の中で「叙勲は郷里の名誉であります」とのお言葉を頂き、身に余る光栄と恐縮に存じているところであります。

私の生家は傍陽の大庭部落で兄の寛治が家を継いでおりますし、親戚や学友の人達も健在であります。四十数年間も故郷を離れておりましたので、この機会に皆様に感謝と御礼の言葉を申し上げますとともに、私の経歴等につきまして一言述べさせていただきます。

私は昭和三年四月に父喜間多の四男として生まれました。昭和九年から六年間傍陽小学校に学びました。この間日本は大陸に於て中国との間に戦いが起こり、戦線は中国全土に拡大し、傍陽村からも多くの人が日の

丸の旗に送られて出征して行きました。中国の南京や漢口等が陥落すると、小学生は旗や提灯の行列で歌をうたって小学校から岡保や中組の方まで行ったものでした。

当時農家の経済は養蚕を中心とした貧しいものでしたが、恩師や良き友と山野に遊び、楽しい少年時代を過ごすことができました。

昭和十五年に旧制上田中学に入りました。二年の時日本軍の真珠湾攻撃による太平洋戦争が勃発し、中学時代は戦時色の濃い生活でした。勉強以外は軍事教練、勤労奉仕に明け暮れており、日曜や祭日は遊んでいる余裕はなく農家の労働戦力でした。

昭和十九年二月に陸軍士官学校に六十期生として入学しました。十五才の若輩も部落の人々に挨拶し、八幡神社に詣で、役場で堀内村長からの祝杯を受けて、駅頭で万才の声に送られて発ったのでした。陸士での生活は翌年八月の終戦で終わりを告げ、八月末に夕方暗くなって顔が見えなくなる頃、そっと家

帰って来ました。

翌昭和二十一年に上田繊維専門学校紡績科に進学しました。食糧難の時代に家から通えて農家の労働力たり得ることと、繊維産業の復興の早さが分かった等の理由でした。

昭和二十四年に某紡績会社に入社しましたが、健康を害し退社後家で療養し、その後二年間の小学校教員の勤務を経て昭和二十七年公務員試験に合格して大蔵省に採用されました。

当初は東京税関に入りまして輸出、輸入の通関業務(輸出、輸入しようとする貨物の品名、数量、価格等を税関に申告し、輸入品については必要な関税を支払い、輸出入の許可を受けること)に携わりましたが、貿易が再開された一年目で大変な忙しさに見舞われました。

以後昭和三十年代から四十年代まで日本経済の高度成長につれて日本の輸出入貿易量は急速に拡大し、それに比例して輸出入通関件数も飛躍的に伸びていきました。税関が如何に忙しくとも国際貿易において通関の遅延により貨物の引取が遅れるこ

とは許されません。

多くの法令の網があり複雑多岐に渡る通関業務を迅速、適格に処理するには、職員一人一人の能力向上は勿論ながら、法令をできるだけ分かり易くし、処理手続を単純化させなければなりません。私は三十年半ばかり大蔵本省において、全国税関に指示して徹底的に事務の合理化を図り、大蔵省設置法等を改正して組織の改革と事務の改善に努めて参りました。

今度の私の叙勲に当たり「関税行政に対する功績あり」と申されたのは主としてこの事ではないかと思われまふ。後半の十年間は横浜、長崎、沖縄の各地に勤務し、国際博覧会等の業務も経験し、昭和五十八年長崎税関長を最後に大蔵省を退官致しました。以後通関士の資格を持って民間会社に就職し、通関士の養成に力を注いで現在に至っております。

私には昭和十九年に二十五才でテニアン島で戦死した長兄源治と、同年二十三才で中支で戦死した次兄渡との二人の兄が居りました。年の離れていた兄達は優しい中にも時には厳しく鍛えてくれました。短い人生を一杯生きた兄達の魂は今でも私の心の燈火となつて、易きにつき、怠惰に陥ろうとする私を叱責し、励ましてくれております。

す。私は善光寺主催の南太平洋戦没者慰霊祭に姉や妻と参加して四回サイパン、テニアン島等に詣でました。

昭和二十年四月沖縄戦が始まった頃、兄と同期位の若い航空士官が陸士の中区隊長に別れの挨拶に来た折、私達後輩の敬礼に対し笑って勢よく答礼し「頑張れよ」と逆に励まされました。この人達が沖縄戦特攻隊員(振武隊)であることは当時知る由もありませんでした。本年四月熊本で陸士の会があり、鹿児島県知覧町にある「特攻平和会館」を訪ね、五十三年前に笑顔で別れた若い勇士達の遺影や遺書を拝見し、日本の今日までの平和はこの人達によって築かれたのだと感動致しました。

烏帽子岳、大松山、四阿根子岳等に囲まれた美しく懐かしい故郷真田町を思う時、先人の労苦を偲び、更なる平和で明るく豊かな町に発展しますことを念じております。



第10回総会のあらまし

事務局長 山口元彦 (横浜出身)

今年の総会及び懇親会は、十月十一日(日)午前十一時三十分から、アルカディア市ヶ谷で開かれました。



出席された人数は、会員百一名、来賓一名(羽田孜議員)、町から箱山町長、堀内町議会議長、清水婦人会会長、真田郷保存会のみなど二十八名でした。今年は、町民からの公募により、中原区の内山仁志さん、中村警二さん、萩原豪夫さんも参加して下さいました。

総会は、塩沢副会長の司会により、大畑出身の歌手坂口浩さんのリードで「信濃の国」の斉唱に始まり、小林会長及び箱山町長の挨拶、堀内議長の祝辞を

受けた後、会務報告などの議事に入り、会計報告、事業計画、役員改選などの議案が承認されました。

町長からは、全国的にトップクラスの菅平スポーツランドの完成が間近いことなど明るいニュースとともに、台風でりんごなどが大きな被害を受けたとのことのお話もありました。

今年の役員改選は、創立以来会を導いて下さった小林孝雄会長、清水清晴副会長をはじめ、石垣節子、長屋京子、倉島保男の各理事が退任され、新会長に三井芳郎前会計理事、新副会長に中島正江理事(荒木、塩沢両副会長は留任)、新しい理事に池田邦子(横尾)、岩井康子(中原)、柴田小夜子(菅平)、滝沢勲(真田)、堀内福(下横道)の五名の方々が選任されました。小林、清水両氏には町から感謝状が贈られ、また、お二人は会の顧問に就任されました。なお、新会計理事には堀内寿美、監事には飯嶋義道各理事が就任し(関谷監事は留任)、また、新しく設けられた事務局長には私が就任しました。

退任役員を代表して小林前会長が、東京真田町の会は他の同様の会に比べ、九十年間少しも衰えることなく発展してきたこと、これも偏に会員の皆様のふるさとを思う熱い心に支えられ



ているからであり、また、町の皆様の暖かいご支援の賜物でもあることを述べ、今後も新しい役員を軸にますます発展させていきたいと思いますと挨拶をされました。これを受けて三井新会長が、小林前会長、清水前副会長が中心になって築いてこられた会の伝統を守り、一層の発展を目指して努力すること、そのために会員の皆様及び町の皆様のご支援、ご協力をお願いしたい旨挨拶されました。

懇親会は、中島新副会長の司会により、三井新会長の歓迎の挨拶、柄沢衛助役の音頭による乾杯の後、一年ぶりに顔をあわせたふるさとの旧友、知人同士でテーブルを囲み、食事をしながら思い出話に花を咲かせました。

また、懇親会が始まってから羽田議員がお見えになり、次々に羽田さんを囲んで記念撮影をする場面もありました。

その後、「真田郷保存会」のみなさんのご出演によるアトラクションが行われました。坂口浩さんの歌をバックにした「真田郷正面踊り」、坂口さん、小林万左子さん、堀内ふみ江さんの演歌競演、「幸村さん」ほかの舞踊と続く、楽しいプログラムでした。

クライマックスは、保存会の方々のリードにより、会長、町

長を先頭に全員が輪になって、「真田郷輪踊り」を踊り、さらに、今年新しく作られた「浪漫・爛漫真田町」というポップス調？（とにかく若者風の早いテンポの曲です）の歌でも踊り回って大汗をかき、ふるさとの仲間と一緒にふるさとの歌に乗って踊ることで、心身共に解放されました。

最後に、荒木副会長と大塚教育長の音頭により万歳の交換をし、塚田理事の閉会の挨拶をもって終了しました。

町から、真田十勇士をデザインしたシールとりんごをお土産にいただき、こもごも「来年もまた会おうね」と言い交わしながら、散会となりました。



千葉県柏市民を

ふる里真田郷へ誘うの記

いざな

柳澤 實 (萩区出身)



先ず私達団体の生い立ちからご説明しましょう。柏市では高齢者を対象に行われる諸々の講座の中から私達は郷土史を学んだOBを母体に組織された「柏文化財ゼミナール」と称し、その経歴も既に十数年に及び、又日常のサークル活動も毎月二回講師を招き受講し、日本史はもとより世界史までに及び、老いて尚盛んな向学心の旺盛な仲間達である。

さて、この団体は年一回の親睦を兼ねた研修旅行が通例で、本年は私の案内で自慢のふる里真田町へ九月三日、三十一名の会員を誘うこととなった。移動には柏市所有の福祉バスが利用され、当然のことながらこの旅行を企画した私がガイド役を務めた。会員の皆に少しでも多くおらが信州を知って頂くため先ず信州の全体像にふれ、県土面積が大であること、海無し県で

あること、北信、中信、南信、東信とはほぼ四ブロックに分かれ、経済圏、文化圏にも多少の差異はあるうか、飛騨山脈に代表される北アルプス、木曽山脈に代表される中央アルプス、赤石山脈に代表される南アルプス、これらの総称が日本アルプスで日本の屋根と呼ばれる所以もこの辺に、こんな解説をなし、又信州では山間に開けた土地は基本的に盆地とは云いません。それを言うなら平です。例えば善光寺平の様に、こんな説明も加える、信濃と言えば俳人一茶を除く訳にはいかない。

小林一茶は「信濃乞食俳諧寺一茶」と自称し下総千葉県北西部の造り酒屋をスポンサーとし、柏市周辺を訪れている。「信濃では」で始まる棚田の水面に写る田毎の月、そして善光寺、更に最も美味と言われる霧下のそばと解説を加えながら、一茶のお国自慢を披露した。

さて、「長野では今年大きなイベントが二回ありました。解った方は手を挙げて」、こんな質問を車中で発した。さすがこれだけの大きな催し正解者は

多数、そうです。それは冬季オリンピック、そして全国は二十余社と言われる諏訪社の総元締諏訪大社の御柱祭である。

一茶は俳句で三ツのお国自慢をしたが、私にも会員に対し二ツの自慢があり、それは親から子へ、子から孫へと歌い継がれた県歌「信濃の国」であり、他は東京真田町の会であるふる里真田町との交流はその親密度、連帯感に全く水魚の交わりで、他に類をみないであろう。又、信濃が育んだ人物では作家「井出孫六」、作詞家「いではく」童謡の作詞家「高野辰之」作曲家「中山晋平」更に幕末に活躍し、歴史にも政治にも大きな影響を与えたとされる「佐久間象山」又、情熱の女と言われた女優「松井須磨子」と「島村抱月」の恋物語り……私も生涯に一度でいいからそんな女性にめぐり逢いたかった！と云え、それが魔性の女であろうと、そんなユーモアを交え、皆の笑いを誘い車中をリラックスさせた。

「私」……でも人間を七十年以上もやっている既にそんなパワーはありません。車内爆笑

……更に、「では今日この旅行に参加した男性の中で私の発言に異議のある方は挙手を」。さすがに手が挙がらず、私も自信を喪失することなくすんだ。

尚、車中で歌われた曲を紹介すると、「朧月夜」、「故郷」は全員で合唱、県歌「信濃の国」、歳月めぐりて……で始まる小学校卒業式の歌は私の独唱、そして歌謡曲「北国の春」は全員でカラオケとなる。これらは総て長野県人によって作られた歌ばかりである。そんな歌と会員との対話楽しんで前方に目を転ずれば、ローマン橋、そして海野平がなつかしい。やがて戸石城、当然話題は村上義清対武田信玄に移る。目指す真田町役場は指呼の間に望まれる。

先ずは到着のご挨拶を。あいにく町長さんは公務のためご不在、お逢いすること叶わず残念に思いました。場所をふれあい真田館に移し、改めて私達柏文化財ゼミナールに柄沢助役さんよりご挨拶を頂く、未知の団体に対し、町のトップクラスよりご挨拶を頂くこの様なことは一般的にみても正に希有のことと私自身ふる里とは本当に有り難いものだなと感動で胸がいっぱいになった。

美味しかった昼食も済み、かねてより大庭区の「山田昭一先生」にご依頼の信綱寺と真田氏

歴史館見学のご案内を頂き、本当に懇切丁寧な解説で更に真田一族を深く知る事ができました。信綱寺墓前の桜、その老木を目の当たりにし、痛々しさ、愛しさ、健気さ、生命力の逞しさに頭が下がる思いです。

会員一同おそろしく初めてであろう真田町の見学を満喫し真田町を離れる時刻も近づく。私のふる里真田町、さよなら、温かく迎えてくれた真田町の皆さん有り難う。いくつもの思いを残しながらバスは宿泊地草津へと向かう。斯様な中、会員からも大好評を得、私自身も大成功の旅であったと確信している。

それもこれも皆箱山町長さんを始め、柄沢助役さん、観光課の芳沢課長さん、情報課の田中昌彦さん、大庭区の山田昭一先生、郷党穴沢区の半田成美さん、更に東京真田町の会清水清晴さん、三井芳郎さん、皆様大勢、心からのご尽力、そして温かく迎え入れてくれた真田町の皆様、この一言に尽きると思っています。

皆様本当に有り難うございました。厚く御礼を申し上げます。



詩人、洪沢孝輔さん追悼

三井 芳郎（大庭出身）

平成十年二月八日の昼過ぎ、友人より悲しい知らせがありました。「洪沢孝輔さんが亡くなった」とラジオのニュースで聞いたという、すぐお家に電話をしてお聞きすると、本日早朝、下咽頭がんのため永眠されたとのことでした。ラジオのニュースは間違いではなかったのです。三ヶ月前に電話で話した時に「キツキが咽頭をつつくようだ……」と言われ、自分では総て解っていたような話しぶりでした。しかし、治療を始めて六ヶ月、昨年十一月一日萩原朔太郎賞の受賞式に出席されてから三ヶ月で、薬石効なく、必死の看病も空しく帰らぬ人となっていました。誠に残念でなりません。

洪沢さんは詩人としての殆ど有名な賞を受賞されました。その一例は、「廻廊」で高見順賞、「蒲原有明論」で亀井勝一郎賞、「啼鳥四季」で読売文学賞、芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章を受章され、さらに萩原朔太郎賞を受賞されました。

洪沢さんは上田中学、東京外大、東大大学院を卒業されフランス留学等を経て最後迄明治大学の教授を長く勤めて居られました。洪沢さんは交友も広く、又、三十数年間に亘る明大及び他大学の教え子の数ははかり知れません。洪沢さんはこれからもつとご活躍されると信じていたのですが、こんなに早く六十七才で帰らぬひととなってしまい、残念でなりません。

真田町横尾出身の偉大な詩人、洪沢孝輔さんのご冥福を心からお祈りいたします。



フランス文学者
詩人

洪沢 孝輔 氏

聖火リレーに参加して

坂口 雅彦（長出身）



今年一月、長野オリンピックの聖火リレーが全国を巡り大変盛り上がりしました。この二十六年ぶりの貴重な聖火リレーを走った私の体験を一筆させて頂きます。

私が聖火をリレーしたのは一月三十日、日本海ルートのある東筑摩郡山形村の第一区間でした。その日は偶然、真田町にも聖火が巡った記念の日でもありました。

当日、山形村は快晴、百年ぶりの大雪で村の大半は雪で覆われて、非常に美しい風景でしたが、ただ気温五度という寒い日でした。

午後一時、受付開始。ユニフォームに着替えた後、一緒に走るメンバーの五人（松本のOさんと地元の中学生四人）と走行説明を受けて、それから直ちにスタート地点の消防署へ向かいました。

スタート十分前、村の皆さんが集まり始め周囲の様子が慌た

だしくなってきました。

そしていよいよスタート。箱から出されたトーチを受け取り、その後ゆっくりと炎が移されました。歓声の中、私は暫く立ったままちらちら燃える炎を眺めると、感激と緊張が混じったなんと複雑な心境になり、それは今まで経験のない初めての感覚でした。

二時四十分、五台の先導者が続いて動きだすとスタートの合図。百名近い観衆に見送られ、ゆっくりと走り出しました。コースに出ると先導者の遥か先まで沢山の方が沿道に立って我々を待つており、近くを通れば温かい声援を送って下さいました。

残り五百メートルくらい過ぎると、トーチを持つ腕が少し痺れてきたので、急遽私の代わりにトーチを五人の仲間

に持っていたら、私は後方からゆっくりと残りの時間を楽



会長退任ご挨拶

小林 孝雄

去る十月十一日(日)に開催された第十一回東京真田町の会総会において、五期十年に亘り勤めました会長の職を退き、顧問に就任いたしました。長期に亘りご支援、ご協力をいただきました会員の皆様、創立以来ご支援を賜りました真田町役場・議会の皆様そして常に支えていただきました理事の皆様、心から感謝を申し上げます。

昭和三十三年十月一日に真田町が誕生、昭和六十三年十月一日に町政施行三十周年を迎えるに当たり、その記念事業の一つとして、「東京真田町の会」の設立が計画され、真田町役場の関係者のご努力により、昭和六十三年九月十日池之端文化センターにおいて設立総会を開催、はからずも会長にご推挙をいただき、爾来今日まで「東京真田町の会」の運営に携わって参りました。十年一昔と申し、十年は大変長い年月であります、顧みますれば昨日のことにように、様々な想い出が走馬燈の如く甦って参ります。

何と云っても、町政施行三十周年を起点として、町民の英知を結集して策定した第三次長期振興計画(昭和六十三年、昭和七十二年)が、着実に成果を挙げて真田町が目に見えて発展していることが、最も嬉しいことです。

毎年真田まつり、ふるさと訪問、町発足記念式典、チャリティゴルフ大会等で真田町訪問の機会に恵まれ、町の変化を確認したり、多数の町民の皆さんとお会

いできましたことは、早くから故郷を離れた私にとっては、何よりの有り難いことでした。そして、幼い頃遊び廻った真田町のあちこちが、直ぐに目にとび込んで、郷愁の想いを実感できたことも、貴重な体験でした。

一方、東京真田町の会も、年毎に会員が増え、年一回の総会でお会いするだけです、回を重ねるに従ってお知り合いの方々も増加し、ふるさとの想い出を語り、またお互いの近況を語り合う機会も多く、これも私にとって貴重な財産となりました。理事各位の努力のお陰で、会報「日本ダボス」も豊かな交流の場となり、ふるさとと東京を結ぶ情報ルートとして、役立つものとなっていると思います。想い出に残る忘れ得ぬ方々も沢山ありますが、在職中何人かの方が逝去され、悲しみも味わいました。

東京真田町の会も、十年の歴史を経て、新会長に運営の責を引き継ぎましたが、会員皆様には従前同様にご支援を賜りたく、心からお願いを申し上げます。

真田町と東京真田町の会の発展を祈念し、重ねて皆様に御礼を申し上げ、退任のご挨拶といたします。



マレットゴルフにふれての感想

大久保 治夫 (大日向)



と地元の人達の指導を受けながら一コース廻ってみた。初体験の感想はまあまあか?

翌日(日)は抜けるような青空の下、男女ハンデ無しで四コースのコンペとなった。以前ゴルフをやった私には始めは簡単に思えたがホールが進むにつれ、欲が出てイメージ通りにはゆかず難儀をし、スコアは十オーバーだったと思う。少々疲れたが大変楽しかった。計画してくれた久保初夫さん他幹事に感謝、感謝。

ときに優勝者は真田町総務課長の洪沢忍さん、地元の利か?

帰京後、高校の友人に話したところ、九月の同級会の時には是非やってみようという事になり、同級会会場の軽井沢に近い場所が良いとのこと、御代田町の「やまゆりの咲く丘ゴルフ場」にお伺いすると、どなたでもプレーが出来るとのこと、(道具を貸してくれる)早速予約をした。

今年(土)の五月末に菅平で今度はマレットのコンペ付きの同級会をするとのこと、マレットには興味はなかったが、お墓参りを兼ねて参加することとした。

当日(土)、菅平は濃霧が立ち込め、西も東も判らない状態でしたが、宿泊所に着いてみると、又しても幹事を残して皆は明日のコンペの練習の為コースに出ていて不在、薦められるままに霧の中、岸俊子さん、丸山武子さん(当会会員)ら

その後、級友の若林克寿君から一度練習をしておきたいと電話があり、級友の小林英郷君が勤務する新座市大和田小学校の隣の高橋さん(高藤園)がコースを持っていると聞いていたので早速電話し、八月二十四日にプレーすることになった。会員の須田俊雄さんご夫妻にご指導を受けながら廻ったが、私は前半をワンオーバーで廻ってご夫妻に「上手いね」と誉められたのがいけなかった。後

退任にあたり思い出

清水 清晴

昭和六十三年五月十七日付で真田町長宮島静男様より真田町は三十周年を迎えるにあたり、東京・神奈川・千葉・埼玉の都三県に在住されている、真田町出身の皆様と、ふるさと真田町との結び付きを深め、相互の親睦と発展を図ることを目的として「東京真田町の会」の結成を計画しました。「大勢の皆様のご賛同をいただいて発会いたしたくご入会、ご参加をお願いします」の往復ハガキを頂き、早速ご返事を出しました。二週間くらいしてから、七月一日午後二時より千代田区二番町「番町グリーンパレス」において第一回設立準備会を開催するから出席をしてほしいと「東京真田町の会」設立準備会委員名簿（案）二十一名が同封されており、これは大変だと思いつながら出席、町からは若林助役（当時）三井企画課長のほかに四・五名の方がおいでになっており、その席上、設立準備会会長に、小林孝雄氏を選出し、七月二十七日同所に於いて、第二回設立準備会を開催し、会則・事業計画・予算・役員・総会の日時などを決め、九月十日に上野池之端文化センターに於いて「東京真田町の会」の設立総会ならびに祝賀会を開催することとし、当時の会員四百九十三名に、真田町助役・若林康朗・東京真田町の会・設立準備会代表小林孝雄両名、名義で通知があった。

総会当日、会員二百三十六名、来賓、羽田衆議院議員ほか三名と真田町から、若林助役と関係者など五十五名の大勢の方

の出席を頂き、はじめに三井収入役の開会の辞から始まり、小林孝雄設立準備会長、若林助役の挨拶、三井俊夫企画課長の「東京真田町の会」の設立経過報告と、議案を真田町で提出し、賛成多数で可決成立「東京真田町の会」が誕生した。初代会長に小林孝雄・副会長に清水清晴・荒木孝一・横沢正晃・理事に長屋京子ほか十五名の役員が決定し、あれから十一年余りの歳月が流れた。その間、ふるさと訪問は、平成二年八月四・五日真田まつりに呼応して、第一回目をを行い、今年で七回目のふるさと訪問を実施して、若林前町長さんをはじめ真田町の方々に、大変お世話になりました。「日本ダボス」も第十号まで発行することが出来たのも会員の皆様のご協力があったからと深く感謝しております。私も十一年の長い間、副会長を務めさせて頂けたのもそのお陰です。今回の総会において、副会長を辞任しましたところ、箱山町長より感謝状を頂き、身に余る光栄です。真田町の皆さん、会員の皆さん本当にありがとうございます。今後ともよろしくご指導をお願いいたします。

終わりに、東京真田町の会の益々の発展と皆様方のご健康を祈念します。三井芳郎新会長頑張ってください。感謝状は、わが家の宝とします。



半はメロメロとなり、菅平の二の舞で終わった、私達二人は須田さんご夫妻には及ぶべくもなかった。

このコースは高橋さんが信州を旅した時マレットをしているのを見て、これは楽しそうな遊びだが地元には無かったのでご自分の栗畑にコース部分のみ芝生で作ったとのこと。栗の木の間を縫った十八ホールで、どなたでもプレーが出来そうです。

九月三日、家内と御代田町のマレットゴルフ場の下見に出掛けた。高い松の木の下に作られたコースであった。せっかく来たのだからと尻込みをする家内をなだめて試しプレーを始めたがホールが進むにつれ、家内にもバーディが出たりして途中からはすっかり虜となっていました。

九月十二日の同級会マレットには丸山忠通先生（七十五才）を含め十四名、先生は脊椎圧迫骨折等で運動など出来る状態に無いと伺っていたので始球式をお願いし、後は休んでいてもらう予定であったが、あまりにも素晴らしいショットがでた為「一番ホール五十m・ドックレットク・パー五」だけをやってみようという事になり終わってみると先生と私が五で他の二人は七であり、先生は大変満足の様子でした。

残りのホールは見物しながら廻ることになったが、次のスタート台に行くと、このホールは幾つで入れれば良いのだと聞きながら打ち出して、腰痛を心配する私達の話も聞かずとうとう最後迄プレーしてしまつた。途中ホールインワンやアルバトロスも出てコース内は、うまく

いった者、失敗した者の歓声で賑やかな楽しい一時でした。

結果は一位が真田町町議の中村康治君、二位は経験豊富な私、三位は練習が功を奏した若林君でした。当然夜の宴会でもマレットの話題で盛りあがりまして。又、心配した先生の腰痛に問題は全く出ず安心しました。

私が経験したマレットは以上ですが、先生にも見られたよう体力が弱くなつても、老若男女、全く経験が無くともすぐにプレーが出来て、ゴルフと比較は出来ないが、何より安価で遊べ、家族でもできるのです。

マレットゴルフは長野県で考案されたスポーツで全国に普及しつつあるが、信州が一番盛んだそうで、各自自治体が一、二ヶ所のコースを持つていているそうです。我が真田町もお屋敷と峰山にあるそうです。機会があったらお試し下さい。

関東には土地高もあってかコースの数は少なく、参考迄に前記「新座マレットゴルフ協会」の連絡先は電話〇四八―四八―三三三三―場所が武蔵野線新座駅前です。



新理事さんの抱負

五名の新しい理事さんが誕生しました。宜しく願います。

滝沢 毅 (真田)

故郷を離れて三十八年、高度成長の波に乗り会社人間として遮二無二働いて来た。そんな時「出身はどこですか」「真田です」「ああ、あの歴史で有名な……」こんな対話が自分を大いに鼓舞してくれ由緒ある土地に誇りを感じたものである。

時代が大きく変貌、不透明な世相と労働環境の変化、年齢的にも人生の節目を迎え、反省の材料は地域社会との関わりに余りにも無頓着に生きて来たことでした。

自分を育ててくれた故郷真田町の皆様への恩返しのために微力ではございますが精一杯務めさせていただきます。

柴田小夜子 (菅平)

「東京真田町の会」毎年この総会の日をとて、楽しみにしていました。

参加するようになり早十年、多くの方々に再会し、楽しい時間を過ごすことが出来ました。懐かしい先輩や友人と久しぶりに語り合っていると故郷の野や山が目の前に広がってくるのです。誰の心にも若き日の楽しい

思い出が一杯に溢れ、時の経つのも忘れてしまっています。

閉会の時間になってもなかなか別れがたく、二次会でお茶をいただきながら、次回の約束をしてからやっと家路に着く。

久しぶりに会ってもこんなに心弾む時間を過ごせるのは幼友達や故郷の人達、すぐに昔の時間にもどって、色々な思い出話で何時間話しても語り尽くせない一日です。故郷を語り合えるのはとても嬉しいことです。

この度、皆さんのお役に立てればと理事の一員となりました皆様の参加を心よりお待ちしております。そして、故郷の輪を拡げていきましょう。若い方のお話を聞かせてください。

堀内 福 (下横道)

故郷を離れて四十四年。

会社（東京ガス）務めにもピリオドをうち、自分の時間に余裕が出来た現在は地域の老人保険施設の手伝いや趣味のゴルフを楽しんでいます。二人の息子もそれぞれ独立し時々孫の相手をしたり妻と二人の気楽な毎日です。

昨今は同郷の集まりも多くな

りました。六月には東京で二七会（傍陽中学校昭和二十七年卒）があり歳月を経た互いの顔に昔の思い出を重ね、和気あいあいと言葉の交わりで談笑。なぜか心温まるものを感じた。

「東京真田町の会」は自然豊かな、人情味あふれるふるさとを愛する者達にとってもっともふさわしい会ではないかと思っています。

さて、今般「東京真田町の会」の役員を仰せつかり、会の目的である会員相互の親睦とふるさととの交流促進のため、微力ではありますが会の発展と郷土の発展を願って頑張りますのでどうぞよろしく願います。

池田 邦子 (横尾)

この度、小林理事さんの熱心なお誘いに、つい心が動いてしまい仲間入りすることになりました。しかし、お引き受けしてから、これは大変なことと思

い戸惑いを感じました。過去何回か総会にも出席させて頂きましたが、故郷真田町の方々との交流も密になされ、さまざまな活動も楽しく見させて頂いたことを改めて想いながら、さらなる発展のために、私の小さな力が少しでもお役に立つ事が出来たらいいかな？と感じております。

岩井 泰子 (中原)

東京真田町の会の総会で全員による「信濃の国」の合唱が始まると私の心は、たちまち生まれ育った故郷、真田町への懐かしい思い出でいつも一杯になります。真田町を離れて三十余年、こちらでの生活の方がずっと永くなりましたのに「私の原点は、私を生み育てくれたふる里、真田町にある」と、何時も思っています。幸い、夫も佐久生まれの信州人、二人の娘達が小さい頃、我が家では信州の両親のふる里へ行くのが何よりの楽しみで年中行事となっていました。

人間、齢を経る程にふる里に對する愛着は強くなるのでしょ

うか。一年に一度の総会の席で年齢の差を越え、同郷の皆様と直接お会いし、肩を寄せ、膝を交え、胸襟を開いて語り合う事は、制約された短い時間ではありますが、何とも言えぬ温もりと、安らぎ、そして明日への活力を与えてくれます。

高速交通時代に入り信州も変わりました。しかし、時代がどのように変わろうと美しい自然と水、そして安らぎを与えてくれる暖かいふる里であって欲しいと願っています。

会員皆様のご健康とふる里真田町のご発展を心から念じてお

ります。

図らずも今年から理事をお引き受けする事になりました。及ばずながら少しでもお役に立てたらと思っています。どうぞよろしく願います。

《女性の会》

副会長 中島 正江

女性の皆さまとお会いする機会が総会のみでは交流がなく、総会で臨席どうし知らない人ばかりなので、次回からは出席しなくなってしまうという声が多く聞かれますので、新会長始め理事の皆さまとも相談し、年間計画を立てて色々な行事を進めようということになりました。

女性の会では手始めに来春、明治座あたりで観劇と昼食会を一日楽しく過ごしてはどうだろうかと提案をしています（男性もOKですよ）。

提案をしてください。実現にむけて前進します。

同じ町出身者一回会えは友達どうし仲良く楽しくやりましょ



近況報告

「東京真田町の会」

総会に参加して

十月十日開催「東京真田町の会」総会へ参加できる一般公募が町であり、すぐに申込みに行きました。当中原区から私を含めて中村警二さんと萩原豪夫さんの三名が参加することになりました。

当日、町関係者の方々と朝七時役場玄関前を出発、町のマイクロバスで一路東京へと向かい、バスの中では箱山町長さんをはじめ皆さんと和気あいあいの中で行く事ができました。

バスは予定の時間に着き、総会までの時間ちよっと一休み。総会が始まると事業報告、監査報告などがありました。



小林会長さんには十年間の会長職本当にご苦労さまでした。また、次期の三井会長さんには、身体に気遣い末永くがんばって下さい。

総会では、地元出身の方々と昔話に花が咲き時間の経つのがあつとゆう間でした。

東京真田町の会の大勢のみなさんに見送っていただき、帰路のバスの中ではにぎやかに会話がはずみ無事家路に着くことができました。

また、公募があれば参加したいと思っております。ありがとうございました。

内山仁志（真田町本原 中原区長）

岩井泰子（中原出身、桶川市在住・旧姓萩原）

我が故郷の味として産直の果物、野菜をお歳暮として利用させていただいておりますがとても評判が良く皆に美味しいと大喜びされております。今年もよろしく願います。

神林公三郎（竹室出身、北区在住）

総会のお知らせ頂き誠に有難うございました。私達同業組合の秋の研修旅行（一泊二日）と生憎同じ日に重なってしまい誠に残念乍ら今回は参加出来なくなってしまうました、悪しから

ずご容赦下さい。皆様に宜しくお願い致します。

半田幸弘（中横道出身、所沢市在住）

やっと余裕の時間が出来ましたので今度は出席致します。

川内知恵子（竹室出身、国分寺市在住・旧姓高寺）

シルバークーラスの発表会と重なり出席出来ません、残念です。

田中すみ子（菅平出身、横浜市在住・旧姓若林）

元気でいます、今年は六五才になりました、皆様によりしくお伝えください。

高橋芳枝（横尾出身、府中市在住・旧姓浅野）

九月十九日久しぶりに真田町を訪れ、老いたとき又住みたいと思えました。菅平もずいぶん変わりましたね。

野間亮子（横尾出身、川越市在住・旧姓北沢）

大変残念ですが欠席させて頂きます。ただ今、第二回子育てにて多忙の毎日です。また参加できる日を楽しみに頑張ります。

倉島保男（角間出身、杉並区在住）

誠に申し訳ありません。

兼ねてより計画致してありましたフランス旅行が、旅行会社の都合で十月六日～二十日と決まり、総会のお手伝いも出来ず深謝の他有りません。

鈴木マツ子（大日向出身、板橋区在住・旧姓塩沢）

お世話になります。

昨年の第十回は出席致しまして久しぶりに真田町の役職の方々にお会い出来ましてとてもうれしく思いました。大日向地区出身の方はあまり「総会」に見えないので残念に思いました。

岩崎みち子（菅平出身、台東区在住・旧姓正木）

いつも大変有難うございます。連休の為前日より出掛ける予定があり欠席しますが、次回は又出席をしたいと思えます。皆様に宜しくお伝えくださいます。

木島豊禧（真田出身、練馬区在住）

元気でゴルフ等もやっています、次回は出席したいと思っています。

寄付御礼

平成十年度総会に際しご寄付を左記の方より頂きました厚く御礼申し上げます。

上原 辰夫様 一万円
半田 幸弘様 一万円

広告御礼

日本ダボス第十一号の発行にあたり広告をお願いしましたところ、多数の方々のご協力をいただき有難うございました。厚く御礼申し上げます。

年会費納入のお願い

平成十年度の年会費千円を未納の方は同封の郵便振替用紙にてお振り込み願います。振込料は無料です。よろしく願います。

原稿の募集のお願い

日本ダボスの原稿を募集しています。紀行文、感想、思い出、近況など、寄稿下さいますようお願いいたします。次号の原稿締切は平成十一年九月末です。左記編集部宛に送ってください。

〒一九二〇三五四

東京都八王子市松が谷二一〇三

大久保治夫

スイス・ダボスを訪問して

真田町役場 渡辺 純一

平成十年十月十八日から一週間、柄沢助役を団長に真田町の小中学生十六人と随員の教師、町職員の二十二名でスイスの姉妹町ダボスを訪問しました。

今回の訪問は長野オリンピックの際にダボスの子どもたちが真田町にホームステイしたことを受けて、ダボス町が招待してくれたものでした。

訪問は、真田町の1㎡の土地があるヤコブスホルンへ登ったり、ダボスの学校での交流会に参加したり、また国際

会議場や職業訓練校、老人ホームやダボスの農家を訪問したりと、盛りだくさんな内容でした。交流会では、子どもたちがハッピをまとい真田町音頭を披露したり、ダボスの子どもと一緒に昼食を作ったりと子どもたちにとっても思い出深い経験ができたようでした。

ダボスには毎年世界各国の政治家や経済人が集い、国際会議を開催する会議場があり、そこを訪れた際にダボ



ダボス町議会議場にて。お別れ式の際に全員での記念写真。

スの姉妹町であるフランスのシャモニーとアメリカのアスペンと並び、漢字で真田という名前の会議室があり、驚くと同時に誇りに感じました。

今回ダボスのみなさんに温かく迎えていただき、真田町とダボス町、その文化や自然環境で

相違点も類似点もありますが、人の心は通じ合い、互いに未知のことを知ることは大きな喜びであると、感じた訪問でした。

～ 会員消息 ～ (敬称略)

〈新入会員〉

秋葉昭雄	〒270-0222	千葉県東葛飾郡関宿町木間ヶ瀬 3783-2	TEL 0471-98-0550 (入軽井沢)
市川 渡	〒102-0073	千代田区九段北 4-1-5	市ヶ谷法曹ビル 209 (荒井)
大内和枝 (山宮)	〒362-0041	埼玉県上尾市富士見 2-7-9	(入軽井沢)
坂口雅彦	〒145-0071	大田区田園調布 1-35-2	レオパレス 101 TEL 03-3721-2872 (長)
嶋田イツ子 (三井)	〒277-0813	千葉県柏市大室 1086-129	TEL 0471-32-0453 (中組)
杉山絹子	〒110-0001	台東区谷中 1-6-9	(菅平)
津久井保子	〒176-0073	練馬区田柄 2-27-10	TEL 03-3920-4375
宮下毅士	〒316-0031	茨城県日立市成沢町 1-19-6	TEL 0294-24-0746
村山紀夫	〒210-0023	川崎市川崎区小川町 7-4	アービラ川崎 201 TEL 044-211-0168
若月あい子 (三井)	〒277-0827	千葉県柏市松葉町 4-1-2-806	TEL 0471-32-3245 (中組)

〈住所変更と訂正〉

石井栄津子	〒329-0205	栃木県小山市東間々田 2-36-19	TEL 0285-41-1115
上原佳和	〒277-0033	千葉県柏市増尾 8-17-6	(電話番号は従来通り)
追木道子	〒350-1152	埼玉県川越市砂久保 121-7	(〃)
大庭今朝女	〒187-0011	小平市鈴木町 1-72-1	グランスクエア一橋学園 3-1005 TEL 042-348-0764
岸 俊子	〒207-0032	東京都東大和市蔵敷 3-691-2	芝中住宅口 6-202 TEL 0425-63-7534
関 裕子	〒246-0026	横浜市瀬谷区阿久和南 4-5-1	ライオンズマンション 701 (電話番号は従来通り)
堀内 進	〒338-0835	埼玉県浦和市栄和 4-8-12	
堀内秀夫	〒338-0035	埼玉県北葛飾郡杉戸町内田 3-12-8	
吉川 操	〒207-2261	千葉県松戸市五香 1-21-21	
吉田敏江→牧内敏江	〒174-0063	東京都板橋区前野町 2-40-1	コラルハイツ常盤台
若林 功	〒229-0031	神奈川県相模原市相模原 7-4-38	TEL 0427-59-1598

〈退会者〉

荒井政美・石井浩子・石川淳子・大沢愛子・大日向 正
木島悦雄・草井茂明・小林深志・斉藤敬子・坂口 守
佐藤光妙・坂本久子・高寺保次郎・高野満喜子・長島ひでよ
広沢栄子・堀内康正・堀内愛子・堀内徳雄・堀内美恵子
山崎はつ子・山崎 泰・和田末子・渡辺喜美代

〈物故者〉

池田貞子・小松辰雄・渋谷孝輔
羽毛田 璋・堀内 功
ご冥福を心よりお祈りします。

平成9年度 決算報告書

自 平成9年4月1日 至 平成10年3月31日

(単位：円)

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
通常年会費	600,000	427,000	総会費	2,000,000	1,401,892
総会懇親会費	1,500,000	1,652,000	会報発行費	700,000	593,250
真田町補助金	500,000	500,000	名簿印刷費	800,000	630,000
広告費	1,950,000	1,200,000	事業費	700,000	535,500
寄付金等	100,000	50,000	事務通信費	500,000	518,195
利息等雑収入	55,211	131,488	印刷費	400,000	128,925
			会議費	400,000	283,764
			渉外費	300,000	156,100
			交通費	100,000	66,360
			雑費・手数料	100,000	96,580
当期収入合計	4,705,211	3,960,488	当期支出合計	6,000,000	4,410,566
前期繰越額	1,294,789	1,294,789	次期繰越額		844,711
合計	6,000,000	5,255,277	合計		5,255,277

上記の通り収支決算報告いたします。

平成10年3月31日

会計 三井 芳郎 ㊟

会計 田中 恒夫 ㊟

上記の決算報告書は適正かつ真実であるものと認めます。

監事 関谷 義久 ㊟

監事 倉島 保男 ㊟

平成10年度事業計画

- (1) 第11回総会および懇親会の開催（平成10年10月11日）
- (2) 会報「日本ダボス」第11号の発行
- (3) ふるさと特産品の宅配協力
- (4) ふるさと真田町との交流促進のため
各種文化事業の実施と参加
- (5) ふるさと訪問の実施
- (6) その他

平成10年度 収支予算

自 平成10年4月1日

至 平成11年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
通常年会費	650,000	総会費	1,500,000
総会懇親会費	2,000,000	会報発行費	700,000
真田町補助金	500,000	事業費	900,000
広告費	800,000	事務通信費	500,000
寄付金等	100,000	印刷費	400,000
利息等雑収入	105,289	会議費	400,000
		渉外費	300,000
		交通費	100,000
		雑費・手数料	100,000
当期収入合計	4,155,289	予備費	100,000
前年繰越額	844,711		
収入合計	5,000,000	支出合計	5,000,000

「東京真田町の会」役員名

職名	氏名
顧問	小林 孝夫 清水 清晴
会長	三井 芳郎
副会長	荒木 孝一 塩沢 和政 中島 正江
事務局	山口 元彦
会計	堀内 寿美
監事	関谷 義久 飯嶋 義道
理事	飯島慶三郎 池田 邦子 岩井 泰子
	大久保治夫 萩原 啓治 小林 正子
	柴田小夜子 田中 恒夫 滝沢 勲
	塚田 恒雄 深町 共栄 堀内 福

退任理事 長い間ご苦労様でした。

石垣 節子様 ・ 倉島 保夫様 ・ 長屋 京子様

編集後記

会報「日本ダボス」の十一号を本日お届けできホッとしております。

本号より編集委員が交替したため何から手を付けてよいのか悩む毎日にただ焦るばかり。幸い、沢山の方々より寄せられた原稿や写真を前任者の三井会長・清水顧問のご指導、ご協力でどうにかまとめることが出来ました。

そして、素晴らしい原稿や写真をお寄せ頂き紙面を飾ることが出来ました各位に心より厚くお礼申し上げます。

真田町とのパイプ役として夜遅くまでご協力を頂いた情報政策課の田中さん。又、休日返上で頑張った中沢活版所さん、誠に有難うございました。

何分にも慣れぬ編集の為、不備な点が多々有るかと思ひますがご容赦ください。何かお気付きの点がありましたらお知らせ下さいますようお願い申し上げます。

大久保治夫

写真提供

真田町役場 清水 清晴
塚田 恒雄

祝 東京真田町の会 - 会報11号 -

株東京マネジメント・コンサルタンツ

〒231-0021 横浜市中区日本大通18 KRCビル
(大栈橋通り)
TEL 045(662)1201 FAX 045(662)1414

日本では高齢化社会の到来が、世界に前例のない速さで進行しています。このため国民の保健衛生に関する施策と病院・診療所の経営が激しい変革の並にさらされています。こうした状況の中で、当社はお医者さんが不安なく診療に専念できるよう、病医院の経営面をサポートするため、首都圏全域にわたりコンサルティング活動を行っています。

(所属グループ)

社団法人日本医業経営コンサルタント協会
神奈川支部支部長

税理士と公認会計士の組織TKC神奈川会

パートナー制による税理士等の事務所代表パートナー

関 谷 義 久 (戸沢出身)

自宅 〒211-0063 川崎市中原区
小杉町1-403-4 パロス 103
TEL 044(711)0055

株TKC東京パートナー会計事務所

〒211-0063 川崎市中原区小杉町1-403
武蔵小杉STMビル(武蔵小杉駅正面)
TEL 044(733)1101 FAX 044(733)1102

世界各国の政治経済動向が私達の生活に直接影響を及ぼすまでに経済はグローバル化しています。激変する新時代到来で、当事務所は世界に通用するパートナーシップ体制を構築すべく広範に活動を開始しています。また中小企業の基盤強化と経営発展に貢献することを信条として活動しています。

横浜事務所

川崎事務所



貿易と国際物流のコンサルタント

貿易物流研究所

所長 小林 孝 雄 (曲尾出身)

〒234-0051 横浜市港南区日野 4-45-5
TEL : (045) 843-8041
FAX : (045) 843-8041

祝 東京真田町の会 — 会報11号 —

東京真田町の会 副会長 荒木孝一 (真田出身) 〒188-0013 東京都田無市向台町一七七一三〇 TEL (〇四二四) 六三一七二〇九	東京真田町の会 理事 飯島慶三郎 (下原出身) 〒180-0002 武蔵野市吉祥寺東町二二三一三八 TEL (〇四二二) 一八五九四	土地・建物・測量・登記 飯嶋測量事務所 土地調査士 飯嶋義道 (中組出身) 横浜市鶴見区梶山二一三八一十一 TEL (〇四五) 五八一〇三二四 TEL (〇四五) 五七一五〇五五	国際浮出印刷株式会社 代表取締役 飯嶋徳磨 (中組出身) 川口市芝四八七九 TEL (〇四八二) 六五一二三七四	石垣医院 石垣節子 (曲尾出身) 東京都北区十条仲原三一二十一七 TEL (〇三三) 三九〇〇一八六三三
東京真田町の会 理事 大久保治夫 (大日向出身) 〒192-0354 東京都八王子市松が谷二五一〇三 TEL (〇四二六) 七七一七一三	東京真田町の会 理事 一級建築士 荻原啓治 (四日市出身) 〒168-0063 東京都杉並区和泉四一四一三三〇一 TEL (〇三三) 三三一五九三〇	ビューティサロン テラ 東京真田町の会 理事 柴田小夜子 (菅平出身) 〒155-0031 東京都世田谷区北沢一三三一一三 TEL (〇三三) 三四六七四〇三五	貿易物流研究所 所長 小林孝雄 (曲尾出身) 〒234-0051 横浜市港南区日野四丁目四五一五 TEL (〇四五) 八四三三八〇四一	勝田電設工業株式会社 代表取締役 塩沢和政 (大日向出身) 東京都江戸川区西小松川町三七番二号 TEL (〇三三) 三六五二一八六七六代
東京真田町の会 顧問 清水清晴 (中横道出身) 東京都狛江市東野川三十一二二 TEL (〇三三) 三四八九一〇七六三	峰岡町一丁目町内会 民生委員・児童委員 会計 田中恒夫 (横尾出身) 自宅 〒240-0063 横浜市保土ヶ谷区峰岡町一八九三 電話 (〇四五) (三三三) 三九八二番	東京真田町の会 理事 塚田恒雄 (横尾出身) 千葉県柏市西山一十一一十八 TEL (〇四七一) 七五一〇八二三	メナード化粧品 等々力駅前代行店 東京真田町の会 副会長 中島正江 (戸沢出身) 〒158-0091 東京都世田谷区中町四一三五一十七E TEL (店) 〇三三三七〇五一九六八五 (家) 〇三三三七〇二一一三八五	ロシア料理渋谷ログスキー 副社長 調理部長 長屋京子 (菅平出身) 本館 渋谷駅南口日本交通公社前大和田ビル2F 渋谷区桜丘一六一三三和田ビル2F TEL (〇三三) 三四六三一一九一一

祝 東京真田町の会 一会報11号一

人と地球に思いやりある環境づくりを目指して

資源愛護と環境保全は企業の責任

一般貨物運送事業、リサイクル推進事業、一般・産業廃棄物処理業

電気自動車 メタノール自動車 CNGトラック

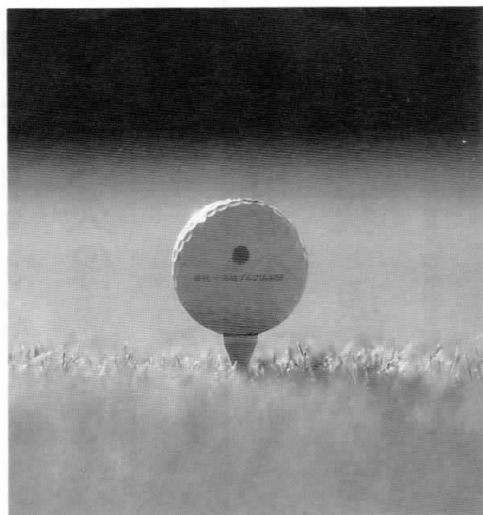
平成9年度東京都環境賞 受賞・東京都知事賞 受賞

みすゞ興業株式会社

代表取締役 荒木 廣之 (下原出身)

〒174-0041 東京都板橋区舟渡 2-10-7 TEL 03 (3966) 2422

自宅 TEL 03 (3965) 4692



感動のドラマはここから始まる。

〒964-0301 福島県安達郡岩代町西新殿 212

岩代・小浜城ゴルフ倶楽部 TEL 0243-55-3300(代)

ホテルファインブルグ TEL 0243-55-3311

ゴルフプレーを伴う宿泊予約 TEL 0243-55-3308

代表取締役 飯 島 慶三郎 (下原出身)

ワシントンポスト紙 (USA) 広告代表

メディア (Hong Kong) 広告代表

株式会社 エム エム アイ

代表取締役 三 井 芳 郎 (大庭出身)

東京真田町の会 会長

自 宅：156-0055 東京都世田谷区船橋 1-48-31 TEL03-3482-9333

事務所：103-0026 東京都中央区日本橋兜町 15-12 八重洲カトウビル (8F)

TEL 03-3664-0369 FAX 03-3664-6063

祝 東京真田町の会 一会報11号一

(株)アップルサイエンス (コンピュータ関連) 代表取締役 社長 山岸 栄 本社 真田町 傍陽 五〇八五 営業所 埼玉県入間郡毛呂山町川角二〇九六 電話 〇四九二一七六一七七五	埼玉工業大学 工学部電子工学科教授 東京真田町の会 理事 深町 共榮 〒366-0052 深谷市上柴町西五七七八二 TEL(〇四八五)七一七一五〇	東京真田町の会理事 司法書士 堀内 寿美 (上横道出身) 〒151-0053 東京都渋谷区代々木二二〇一一九 東洋ビル四〇二号 TEL(〇三三)三三七九一九八二	株式会社東部財務情報センター 堀内税務会計事務所 堀内 茂雄 (中横道出身) 〒130-0002 東京都墨田区業平四一九一三 TEL 三六二五一二二九一 FAX 三六二二一〇一六四	火災・生命保険・傷害・自動車保険代理店 堀内 寅次 (中横道出身) 〒330-0825 大宮市東新井九三九一六四 TEL 〇四八一六八五一五二八二 FAX 〇四八一六八七一九一二二
国画院会員 日本選抜美術家協会委員 画家 森本 幹生 (入軽井沢出身) 川崎市中原区小杉陣屋町一六八 TEL(〇四四)七三三一〇二六七	新お茶の水法律事務所 弁護士 山口 元彦 (横沢出身) 〒113-0033 東京都文京区本郷二一三十一 湯浅ビル五階 TEL(〇三三)三八一五一三三四四(代表) FAX(〇三三)三八一五一三三四一	東京真田町の会 理事 滝沢 叡 (真田出身) 〒263-0031 千葉県千葉市稲毛区稲毛東五七一九 ハynes稲毛二〇二 TEL(〇四三)二四三一九四一〇	社会保険労務士 三井 周 (大庭出身) 自宅 東京都江戸川区篠崎町三一九一九 TEL・FAX(〇三三)三六七七三三六六	東京真田町の会 理事 堀内 福 (下横道出身) 〒350-1308 埼玉県狭山市中央三二七一一二〇三 TEL(〇四二九)五八一五七八

真田温泉健康ランド ふれあいさなだ館

長野県小県郡真田町大字長7369-1 TEL.0268(72)2500
有線 2230



育ててください

ふるさと結ぶホットラインに

*ふるさと宅急便

*特産物の開発・販売



長野県小県郡真田町大字長七二七八番地の一

財団法人 真田町振興公社

TEL(〇二六八)七二二二〇〇
内線 二六六

東京で躍進を続ける 真田不動産グループ

本社ビル竣工10周年

1F ●特選輸入洋品 ●総合不動産業 WAKO ショールーム ☎03-3620-2411
株式会社 真田不動産 ☎03-3620-2511
2F 貸事務所 (歯科医院)
3F~6F IMPERIAL HORIUCHI (賃貸マンション)



株式会社 真田不動産

代表取締役/堀内 政

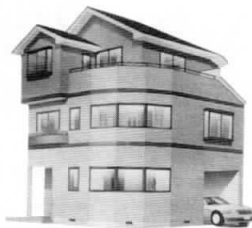
(真田中学校上・元あさひ堂出身)

〒120-0005 東京都足立区綾瀬6-30-8 (WAKO 真田ビル1階)

自宅: 足立区青井4-4-10 ☎03-3840-3211



WAKO真田本社ビル 1988年完成



IMPERIAL堀切 1998年完成 (当社施工物件)



IMPERIAL門前仲町 1999年3月新発売
3棟現物の内2棟

新規事業: 東京地裁民事 21 部東京 23 区全域 不動産競売物件取扱業務



信頼に応える確かな技術

勝田電設工業株式会社

電気設備工事設計施工

代表取締役社長 塩 沢 和 政 (大日向出身)

本 社 〒132-0032 東京都江戸川区西小松川町 37 番 2 号
TEL・03(3652)8676 FAX・03(3656)3360

東京支店 〒132-0032 東京都江戸川区西小松川町 37 番 2 号
TEL・03(3652)8679 FAX・03(3655)8328

千葉支店 〒273-0002 千葉県船橋市東船橋 3 丁目 39 番 16 号
TEL・0474(23)1755 FAX・0474(23)0092

茨城支店 〒305-0062 茨城県つくば市大字赤塚 610 番 3
TEL・0298(36)4737 FAX・0298(36)4549

銀座営業所 〒104-0061 東京都中央区銀座 1 丁目 3 番 3 号伊東ビル 6F
TEL・03(3561)5822 FAX・03(3561)5832

木更津営業所 〒299-0231 千葉県袖ヶ浦市下泉字勝下 20-2
TEL・0438(75)6600 FAX・0438(75)6914

日 本 ダ ボ ス (平成 10 年 12 月 25 日発行)

発 行 東京真田町の会 会長 三 井 芳 郎

編集委員 大久保 治 夫 中 島 正 江 柴 田 小夜子 滝 沢 叔

印 刷 上田市・街中沢活版所